平成２８年度　新宿区立市谷小学校　校内研究　研究構想図　５月12日

児童の実態

・明るく元気に、物事に積極的に取り組む。

・語彙が豊富、学習に対する意欲が高い。

・体の感覚を通して感じ取る経験が少ない。

・豊富な知識を実生活にうまく役立てている児童が少ない。

教師の願い

・心動かす体験をさせたい。

・認め合う関係の中で他者と協力し、学び合ってよりよく生きることへの意識を高めたい。

・地域の学習材を生かして、市谷小だからこそできる授業で児童を育てたい。

学校教育目標

　市谷小学校の児童としての自覚を

もち、人間尊重の精神を基盤とし、

心身ともに健康で、知性と感性、自主性と創造性に富み、勤労と責任を重んじ、環境を大切にする心と国際感覚をそなえ、社会連帯意識と国際的視野をもち、心豊かにたくましく生きる児童の育成を目指し、次の目標を定める。

○明るく　じょうぶな子ども

◎よく考え、やりぬく子ども

○きまりを守り　なかよくする子ども

◎すなおで、思いやりのある子ども

昨年度までの研究から

・2年前の東京都人権尊重教育推進校としての取組、実践の蓄積

・生活科・総合的な学習の時間の振り返り場面に着目した研究

・さらなる体験活動の充実と話し合いに着目した研究へ

学校の特性

・家庭での教育への関心が高い。

・宿舎・マンションなど多くの住宅に

囲まれている。

・開校１１０余年の歴史と伝統がある。

・地域の方の積極的な協力で地域行事が多い。

・岩手県の小学校と３０年近く継続した交流がある。

研究主題

心豊かに感じ合い、学び合う市谷の子

～どの子も主体的に活動できる体験と話し合いの充実を通して～

**学び合う**

**表現活動や話し合いなどの言語活動を用いて**

**友達と学びを深め、広げ、高めることができる**

**感じ合う**

**直接体験や友達と関わり合う活動を通して**

**心を動かして感じ、他者と共有することができる**

発達段階に応じた目指す児童像

低学年

体験を通して自分の気付きや思いを深め、友達と伝え合って学ぶ楽しさを味わう児童

中学年

　体験を通して感じたことを伝え合い、他者の考えを受け止めて、自分の

考えを深める児童

高学年

体験をもとに感じたことを共有し、自分の考えと他者の考えを生かし、高め合う児童

研究の内容

どの子も主体的に活動できる

市谷の子に合った話し合い

市谷だからできる体験

研究の仮説

生活科・総合的な学習の時間において、市谷小だからできる体験活動になるように計画したり、市谷小の子供たちの実態に合った話し合いになるように場の設定をしたりして、どの子も主体的に活動できるように指導法を工夫することで、心豊かに感じ合い、学び合う児童を育てることができるであろう。

研究推進委員会による校内研究の活性化

情報共有・発信G（伊藤・渡壁・山田・小田）

・職員室掲示の活用　　　・研究紀要の作成

・校内掲示版の活用

・振り返り感想シート配布、掲示

・学校ホームページの活用

授業・協議会G（藤本・須賀・野口・黒岩）

・生活科・総合の他校の実践資料集め

・「話し合い活動」の実践事例集め

・模擬授業、分科会の日程調整、お知らせ

・教室掲示の作成、管理

・協議会の進め方検討、進行

・記録（写真、文字）

・校内向け研究便りで協議内容、指導の周知